

かお・人・interview

2021年7月13日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
八代復興事務所 所長

徳田 浩一郎氏

Koichirou TOKUDA

令和2年7月豪雨によって、球磨川流域は堤防決壊、土砂災害など甚大な被害を受ける。復旧・復興事業の加速化を図るため、八代河川事務所内にあった八代復興出張所は、令和3年4月に八代復興事務所として開設された。橋梁・道路の被災箇所は、順調に回復しているものの、地元の声を反映させた復興計画を策定するには、どのような対策が有効か、安全・安心に暮らすための基盤作りが鍵になる。今後の取り組み、課題などについて、徳田所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

八代復興事務所は、2020年7月豪雨で被災した球磨川中流部、9支川と流失した10橋梁を含む国道219号等の道路約100kmの災害復旧を担っています。昨年9月に設置された八代復興出張所長から引き続き担当することになり、地域の期待の大きさと責任の重さを感じています。復旧・復興を加速化できる体制が整ったことにより、全体的な事業ボリュームを出し、工程を考えていくうえで今年、来年が勝負と思っています。出来ることをロスなくやっていきたいし、マネジメントが大事になると思います。



▲八代復興事務所開所

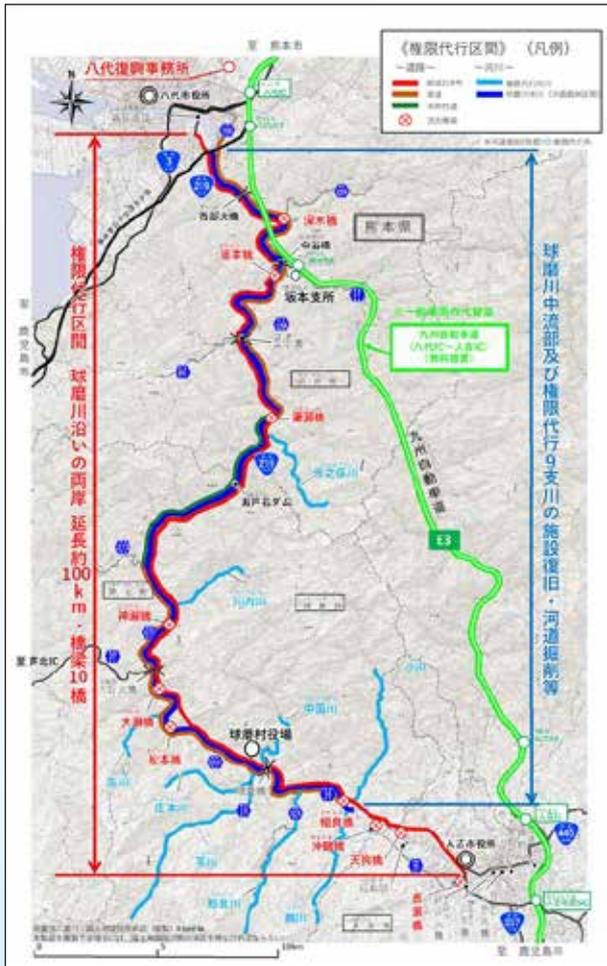
Q 復興・復旧の進捗状況

令和2年7月4日～7月7日にかけて発生した記録的な豪雨により、球磨川沿いの各地で甚大な被害が生じました。河川では球磨川本川の堤防が2か所決壊するなど、本川、支川で多数の土砂堆積や施設被災が発生しました。道路についても球磨川を渡河している道路橋10橋が流失。球磨川沿いの国道219号や県道等(八代～人吉間)で、土砂の流入や路体流出などが発生し通行不能となりました。

被災した河川及び道路の復旧工事には、高度な技術を要することから、熊本県知事から要請を受けました。国は大規模災害復旧法に基づき、熊本県が管理する球磨川中流部の河川の権限代行、球磨川に架かる橋梁、両岸道路の早期復旧に向けた県道等の権限代行(道路法の改正(令和2年5月)後、国が初めて適用。)区間の災害復旧事業に取り組むこととなりました。災害直後、九州地方整備局では、豪雨の発災直後から国土技術政策総合研究所(以下「国総研」)及び国立研究開発法人土木研究所(以下「土研」)等の研究



復旧・復興を加速化できる体制が整ったことにより、
**全体的な事業ボリュームを出し、
 工程を考えていくうえで今年、来年が勝負と思っています。**



▲八代復興事務所事業箇所

機関と連携し、九州地方整備局をはじめ、全国各地から派遣された緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE:被災地方公共団体等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的。)が緊急の点検・調査を行い、八代河川国道事務所を含む九州地方整備局全体で、応急復旧などの復旧・復興工事にあたりました。

現在、球磨川本線中流部(遙拝堰～小川合流点)及び、権限代行による熊本県管理区間の9支川(川内川、小川等)の土砂・流木の撤去、被害施設の復旧・河川掘削

等の災害復旧を進めるとともに、球磨川を渡河していた橋梁10橋を含む球磨川沿いの兩岸道路(約100km)の災害復旧を進めています。

八代河川国道事務所と協働で、今年度出水期前までに掘削を予定していた約70万m³の掘削を令和3年5月末までに完了し、権限代行9河川についても、同時期までに約20万m³の掘削を完了したところです。また、球磨川本川(国管理区間)の被災施設の復旧については、八代河川国道事務所での実施箇所も含め、堤防が決壊した2箇所、および護岸等の被災29箇所のうち、緊急性の高い18箇所の本復旧が令和3年5月末までに完了しました。流失した10橋の上部工撤去はほぼ完了し、大型ブロックでの護岸工事が完了していない箇所は布製型枠を用いた補強を実施しました。早期復旧の観点から、被災状況、現地状況(アクセス道路、用地等)を考慮し、現位置での復旧を満足する橋梁について、仮橋に着手しており、令和2年9月には西瀬橋の仮橋の設置を完了し、令和3年5月には鎌瀬橋、坂本橋、相良橋の3橋について仮橋の設置を完了しました。

Q社会状況の変化と取り組み

熊本県では2020年2月に1例目の新型コロナウイルス感染症患者が確認され、その後、拡大の一途をたどり、終息のめどが見えない状況です。

事務所職員が発症または濃厚接触者となることは災害復旧事業の進捗に大きな支障をきたすことにも繋がりがねないことから、新型コロナ感染症への対応方針の作成・周知や事業継続計画(BCP)を見据えた取り組みなど、災害直後から今日に至るまで常に緊張感を持って、事務所全体で感染防止対策等に取り組んでいます。

また、同様に工事受注会社においても日頃より意識高く感染防止対策等に努めていただいております。この国家的非常事態のなか、工事資材の調達、作業員の確保、建設機械の確保や関係者調整など1日も早い復旧・復興に向け

橋梁の復旧



被災した西瀬橋



開通 令和2年9月

道路の復旧



被災した国道219号坂本町荒瀬



現在の状況

て工事を進めていただいていることについて、大変ありがたく思っています。

Q熊本県や九州地区との関わりについて

九州地方整備局管内のうち、佐賀、大分県内事務所の勤務経験はありませんが、どの職場でも貴重な経験をしてきました。特に印象深いのは、熊本河川国道事務所副所長時代に体験した熊本地震です。自分自身も被災しましたが災害復旧優先で勤務した事と、熊本河川国道事務所副所長時代と本局技術管理課長時代の勤務で幅広い人脈が築けたのも含めて、その経験が今、役に立っていると思います。また、八代市出身であるため、地元の復旧・復興に携わることに縁とやりがいを感じています。

Q当事務所の紹介（事業内容、組織、特徴）

令和2年9月に八代河川国道事務所内に「八代復興出張所」が設置され、復旧・復興事業を担い、令和3年4月には令和2年7月豪雨からの復旧・復興を加速し強力に事業を推進するため「八代復興事務所」が設置されました。当事務所の所掌は河川事業と道路事業に大別され、河川事業は、球磨川中流部（遙拝堰～小川合流

点）及び中流部に注ぐ9支川（川内川、小川等）において河川の土砂・流木の撤去、被災施設の復旧、河川掘削等を実施しており、道路事業は球磨川を渡河していた橋梁10橋（鎌瀬橋、西瀬橋等）を含む球磨川沿いの両岸道路約100km（国道219号、主要地方道人吉水俣線等）の復旧事業を実施しています。

事務所構成は、事務所長以下、副所長3人、用地・事業対策官2人、建設専門官6名、総務課、経理課、用地課、工務第一課、工務第二課、工務第三課の6課53人体制で構成され、事務所スタッフの平均年齢は39.7歳と整備局内事務所の中ではかなり若く、バイタリティーあふれる事務所です。出向者も8名（他地整3人、熊本県3人、八代市1人、NEXCO西日本1人）勤務しており、「復興事務所であることを理解し、その上で自分の役割を担ってほしい。」と期待しています。

Q今年度の事業概要（簡略）について

河川事業については、引き続き球磨川中流部（遙拝堰～小川合流点）及び中流部に注ぐ9支川（川内川、小川等）において河川の土砂・流木の撤去、被災施設の復旧、河川掘削等を推進するとともに、当面の目標として、権限代行9河川の被災施設の復旧約140箇所のうち、

権限代行河川9支川の復旧



川内川（土砂・流木撤去の状況）



復旧の状況

約90箇所に着手しており鋭意施工を進めていきます。道路事業については、球磨川を渡河していた橋梁10橋の被災状況、現地状況（集落、主要施設へのアクセス）や球磨川流域治水プログラム（令和3年3月策定）、沿線のまちづくり計画の検討状況を考慮し、架橋位置・形式について学識者で構成される復旧技術検討会を開催し検討してまいります。また、昨年から引き続き橋梁10橋（鎌瀬橋、西瀬橋等）を含む球磨川沿いの兩岸道路約100km（国道219号、主要地方道人吉水俣線等）の復旧事業を推進するとともに、当面の目標として、道路の応急復旧や流失した橋梁等の下部工撤去に取り組んでまいります。

今年、来年は本復旧の道筋をつけるための「勝負」の時期と捉え、復興事業の方向性や全体像を把握し、工程の検討を急いでいきたい。

Q地域との連携・協働について

復旧・復興事業については、熊本県や流域市町村等と連携した治水対策（球磨川水系緊急治水対策プロジェクト）の実施や掘削土のまちづくりへの活用等の実施を推進し、地域の声を聞きつつ、沿線のまちづくり計画や球磨川流域治水プログラムと連携した復旧・復興に当事務所として取り組み支援していきたい。

Q地域建設業への要望・メッセージ

働き方改革や新型コロナ対応など、建設業を取り巻く環境は、以前にも増して厳しい状況になっていると考えています。また、集中豪雨や台風などの風水害も想定を超えた災害が各地で頻発しており、令和2年7月豪雨に似た災害が「いつ・どこで」発生しても不思議ではありません。建設業界は、災害発生時に真っ先に被災地に駆けつけ、復旧工事を進めていく「地域の守り手」としての役割を担っており、今後、その役割は年々大きくなる

ものと考えています。

事業を進める上では、人とのコミュニケーションが重要であると考えています。復興事業を強力に執行するためには、技術者不足などの不調・不落工事や業務を出さないために河川工事ではフレームワーク方式を採用するなど、建設業協会、測量設計コンサルタンツ協会などと積極的に意見交換し、適切な発注タイミングを計り見極めていきます。

一日も早い災害の復旧・復興のためには、地域建設業界は大事なパートナーであり、今後も信頼関係を築きながら事業を加速させていきたい。また、建設業のイメージアップや建設従事者の待遇の向上などを発注者の立場から支援していきたいと考えています。

Q趣味や健康法について

ゴルフを趣味にしていたのですが、首を痛めてから遠ざかってしまいました。今は、もっぱらスポーツ観戦がメインです。ゴルフはもちろん、野球、サッカーなど時間があるときは楽しんでいます。

意外と思われるのですが、晩酌はワインを好んでいます。産地にこだわりがなく、赤白と辛口のワインには目がありません。せっかく熊本にいますので、味わい深いといわれる熊本ワインにも挑戦してみたいと思います。

プロフィール



出身地：熊本県
生年月日：昭和37年5月15日（59歳）
S56年4月 建設省九州地方建設局 入省
H26年4月 宮崎河川国道事務所 副所長
H27年5月 熊本河川国道事務所 副所長
H29年4月 九州地方整備局 道路部 地域道路課長
H30年4月 九州地方整備局 企画部 技術管理課長

R2年4月 九州地方整備局 道路部 地域道路調整官
R2年9月 八代河川国道事務所 八代復興出張所長
R3年4月 現職